

小中一貫教育に関する調査報告書

概要版

～ 施設一体型または施設分離型による小中一貫教育の実施に向けて ～

小中一貫教育の概要

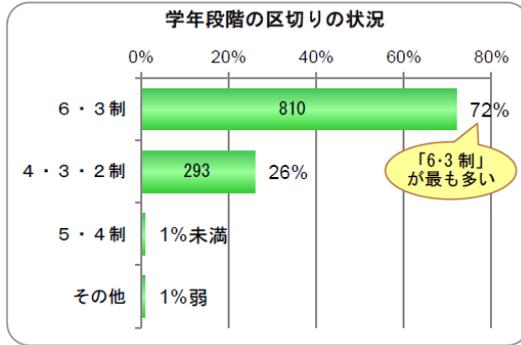
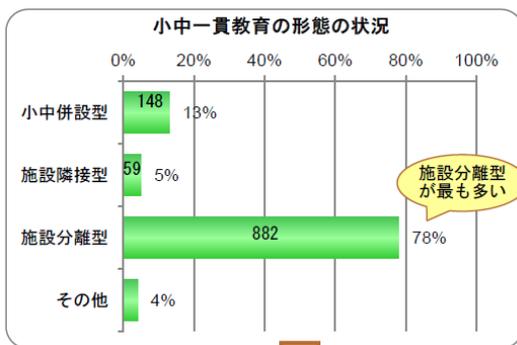
小中一貫教育とは、小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、体系的な教育を目指す教育のことです。教育課程は、義務教育の9年間を現状の「6・3制」から「4・3・2制」あるいは「5・4制」など、柔軟に設定することも出来ます。

<小中一貫教育が取り組まれる背景>

- 小学校から中学校に進学する際の環境の変化（中1ギャップ）の解消
- 自尊心の向上
- 学力の向上
- 教職員の資質の向上
- 小学校の統廃合 など



※平成 26 年度に文部科学省が実施した調査では、211 の市町村（全市町村の約 12%）、1130 校（全公立小中学校の約 4%）で小中一貫教育を実施



<小中一貫教育の形態>

(出典：平成 26 年度小中一貫教育等についての実態調査（文部科学省））

施設一体型		③施設分離型（連携校型）
①小中併設型	②施設隣接型	
<ul style="list-style-type: none"> ● 国田小・国田中（水戸市） ● 里見小・里見中（常陸太田市） ● 春日学園（つくば市） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑岡小・緑岡中（水戸市） ● 飯富小・飯富中（水戸市） ● 双葉台小・双葉台中（水戸市） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ①、②を除く全て（12）の中学校校区（水戸市） ● 中里小・中里中（日立市） ● ①を除く全て（14）の中学校校区（つくば市）

茨城県内では4市で小中一貫教育を実施（平成 26 年度）

【学習指導上の成果】

- ・全国学力・学習状況調査の結果向上（施設一体型：6割 施設分離型：4割）
- ・授業が理解できると答える児童生徒増加（施設一体型：8割、施設分離型：5割）

【生徒指導上の成果】

- ・不登校の減少（施設一体型：7割、施設分離型5割）
- ・思いやりや助け合いの気持ちの育成（施設一体型：9割、施設分離型6割）

施設一体型の方が「学習指導上の成果」「生徒指導上の成果」とも大きな成果をあげています

※学校教育法等の一部を改正する法律が平成 28 年 4 月 1 日から施行されるため、今後は、文部科学省に特区の申請を行わず、市町村の判断で小中一貫教育が実施できる。

龍ヶ崎市の現状

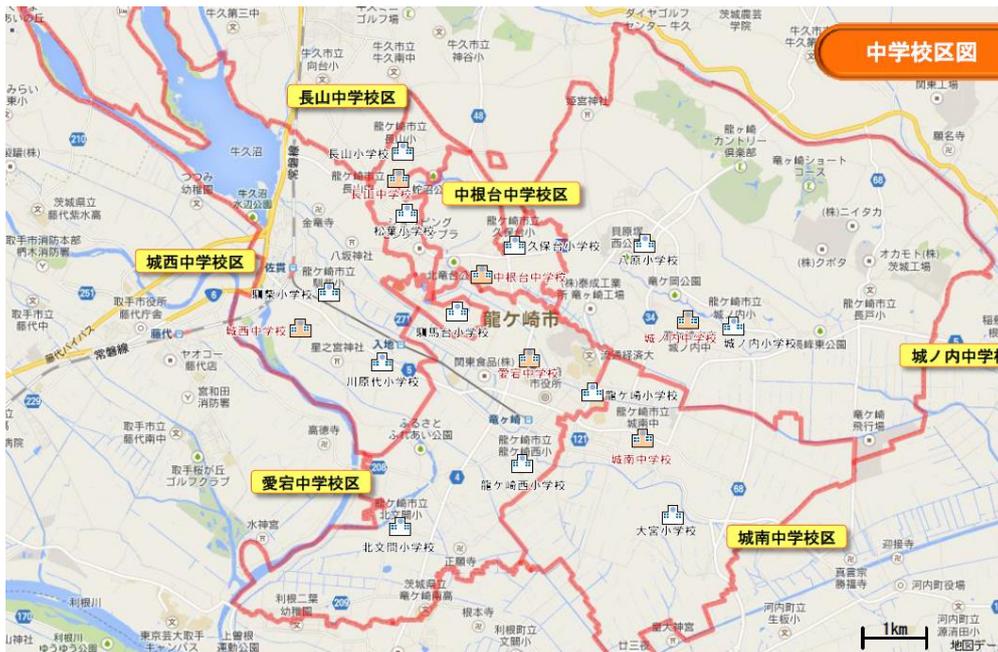
本市は、平成 15 年度から中学校区単位で小中連携教育を実施しています。

【主な取組内容】

- ・児童生徒間での交流事業の実施（吹奏楽部演奏会、あいさつ運動、清掃活動、合同防災訓練など）
- ・教員間での小中合同研修会の開催、出前授業など

【中学校区の児童生徒数】

学区	児童生徒数
愛宕中学校区	548 人
城南中学校区	684 人
長山中学校区	793 人
城西中学校区	1,044 人
中根台中学校区	1,087 人
城ノ内中学校区	2,110 人
合計	6,266 人



小中一貫校のシミュレーション

＜小中一貫校の開設に向けたシミュレーションのフロー＞



- ・6年後の児童生徒数は**5,258人**（推定）
- ・平成33年度には、小学校7校、中学校3校が「理想的な学級規模」に満たない
- ・**中学校は市内4か所**（龍ヶ崎、佐貫、北竜台、龍ヶ岡）に**1校**が適正規模適正配置

・「理想的な学級規模」の確保を前提に、**将来的に小学校6校、中学校4校**

・既存の施設では**龍ヶ崎小学校**だけが施設一体型の小中一貫校の開設が可能

・**龍ヶ崎小学校、愛宕中学校、城西中学校**の敷地に施設一体型の小中一貫校の開設が可能

・市内4か所で施設一体型、または施設分離型での小中一貫校開設の検証

地区名	施設一体型		施設分離型
	既存	新規	
龍ヶ崎地区	△	○	○
佐貫地区	×	△	○
北竜台地区	×	×	○
龍ヶ岡地区	×	×	○

- ・施設分離型の小中一貫校の開設が現実的な選択
- ・施設分離型では小中一貫教育の成果が見えにくい（教員の多忙間の助長、保護者・地域からの認識）
- ・学力の向上、不登校の減少は施設一体型の方が優れている
- ・施設一体型の場合、大きな財源が必要

龍ヶ崎地区：小学校1校、中学校1校（施設一体型の場合は小中学校1校）
 佐貫地区：小学校1校、中学校1校
 北竜台地区：小学校2校、中学校1校
 龍ヶ岡地区：小学校2校、中学校1校